



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

12. ブドウ晩腐病に対するミギワ 20 フロアブルの有効性

[要約]

簡易被覆栽培で発生するブドウ晩腐病に対して、ミギワ 20 フロアブルの実用的な散布時期は果粒大豆大期までで、本剤を組み込んだ防除体系は本病の発病抑制に有効である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 技術

[背景・ねらい]

県内の簡易被覆栽培ブドウにおいて、晩腐病による被害が恒常的に発生し問題となっている。そこで、新規殺菌剤ミギワ 20 フロアブル（以下、ミギワ 20F）の晩腐病に対する防除効果、汚れ及び果粉溶脱への影響を明らかにするとともに、特に感染リスクが高い果粒大豆大期に本剤を組み込んだ防除体系の効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. ミギワ 20F は、果粒小豆大期、大豆大期及び袋掛け前のいずれの時期に散布しても、高い防除効果が認められる（図1）。
2. ミギワ 20F は、果粒小豆大期及び大豆大期に散布することで、汚れ及び果粉溶脱の発生が軽減される（図2）。
3. 簡易被覆栽培ブドウの防除体系（表1）において、果粒大豆大期に散布する薬剤としてミギワ 20F を用いた場合、対照のセイビアーフロアブル 20 及びフルーツセイバーよりも発病が低く抑えられる（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 晩腐病の果実への感染は5月下旬～7月上旬に生じるため、開花期～袋掛け前は定期的な防除が必要である。また、本病は袋掛け後にも感染するため、袋掛け後の銅剤散布を必ず実施し、収穫が遅れないよう適期収穫を心掛ける。
2. マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤またはペンコゼブ水和剤）と組み合わせる場合は、汚れ及び果粉溶脱のリスクを回避するため、マンゼブ水和剤は果粒小豆大期まで、本剤は果粒大豆大期までに散布する。
3. 巻きひげの除去、早めの袋掛け、袋の止め金をしっかり巻くなどの耕種的防除も併せて行う。



[具体的データ]

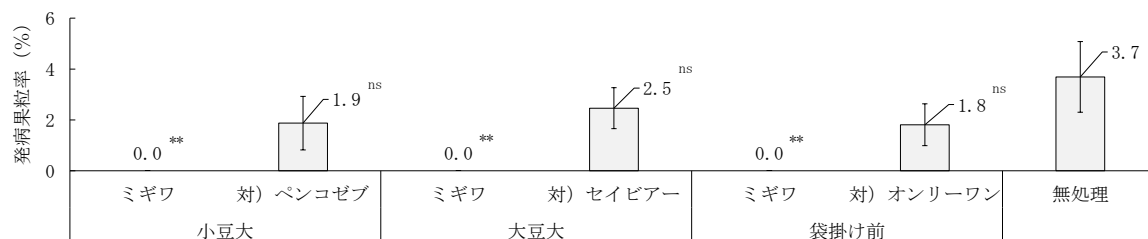


図1 ミギワ 20フロアブルの散布時期が晩腐病の発生に及ぼす影響

注1) 試験場所：農業研究所、試験年：令和4年、品種：「ピオーネ」（簡易被覆）

試験方法：各生育時期にミギワ 20F 2,000 倍及び対照剤（ペンコゼブ水和剤 1,000 倍、セイビアフロアブル 20 1,000 倍及びオンリーワンフロアブル 2,000 倍）を、背負い式動力噴霧器で1区当たり1.5L 散布した

注2) 図中の**は Fisher の正確確率検定により無処理との有意差あり ($p < 0.01$)、ns は有意差なしを示す

注3) 図中のエラーバーは、処理区ごとの平均値の標準誤差を示す

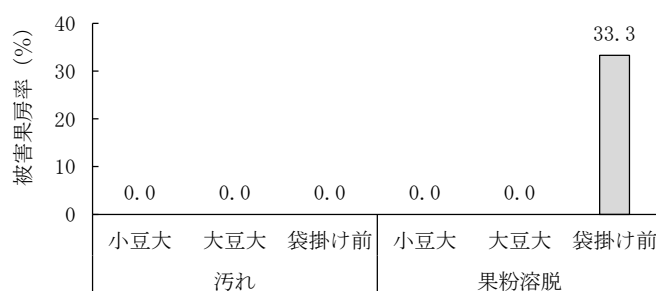


図2 ミギワ 20フロアブルの散布時期が汚れ及び果粉溶脱の発生に及ぼす影響

注) 試験場所：農業研究所、試験年：令和4年

品種：「ピオーネ」（簡易被覆）

試験方法：各生育時期にミギワ 20F 2,000 倍を、背負い式動力噴霧器で1区当たり1.5L 散布した

被害果房率：実用上問題となる被害果房の割合

表1 果粒大豆大期にミギワ20フロアブルを組み込んだ殺菌剤の防除体系

散布時期 (生育ステージ)	散布薬剤
4月上旬 (発芽前)	ベフラン液25
5月下旬 (開花前)	ポリベリン水
6月上旬 (小豆大)	ペンコゼブ水 フルビカF
6月中旬 (大豆大)	
6月下旬 (袋掛け前)	オンリーワンF ランマンF
7月中旬 (袋掛け後)	ICボルドー66D (アビオンE加用)
8月上旬 (袋掛け後)	ICボルドー66D (アビオンE加用)

試験区：ミギワ20F

対照区①：セイビアF20

対照区②：フルーツセイバー

注) 薬剤の希釈倍率：ベフラン液25 250倍、ポリベリン水 1,000倍、ペンコゼブ水 1,000倍、フルビカF 2,000倍、ミギワ20F 2,000倍、セイビアF20 1,000倍、フルーツセイバー 1,500倍、オンリーワンF 2,000倍、ランマンF 2,000倍、ICボルドー66D 50倍、アビオンE 1,000倍。表中の「液」は「液剤」、「水」は「水和剤」、「F」は「フロアブル」の略称である

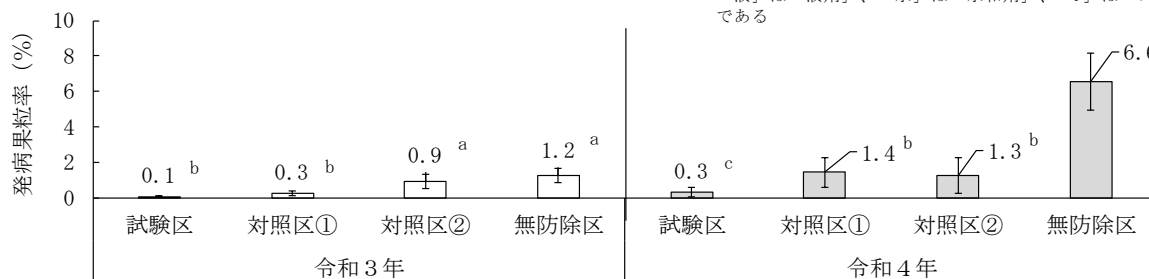


図3 防除体系における果粒大豆大期の薬剤がブドウ晩腐病の発生に及ぼす影響

注1) 試験場所：農業研究所、品種：「ピオーネ」（簡易被覆）、試験年：令和3年及び令和4年
各試験年の異英小文字間には Ryan 検定によりそれぞれ有意差があることを示す ($p < 0.05$)

注2) 図中のエラーバーは、処理区ごとの平均値の標準誤差を示す

[その他]

研究課題名：簡易被覆栽培ブドウにおける主要病害に効果的な防除体系の検討

予算区分・研究期間：受託（全農委託）・令4年度

研究担当者：苅坂大樹、川上敦子、桐野菜美子

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[平 27 \(59-60\)](#)、[令 2 \(27-28\)](#)、[令 6 \(39-40\)](#)